

# 2014年12月 箱根家族旅行

右城 猛

## 1. まえがき

12月1日には御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンターで、日経コンストラクション実践塾「土砂災害防止の目を養う」の講演を頼まれていた。12月3日には日本道路協会で、「落石対策検討WG」の委員会へ出席することになっており、2日が空白日になっていた。

11月30日の夜は、川越の堀田家と食事をするため、家内も一緒に東京に出てきていたので、和恵と二人の孫を連れて一泊で箱根に行くことにした。電車や宿の手配はすべて和恵に任せた。

## 2. ロマンسカーと登山電車



家内は和恵らが住んでいるマンションに泊まったが、私は松尾修氏、上野将司氏ら新橋の浪漫亭で食事をするようになっていたので、1日の夜はヴィアイン秋葉原に泊まっていた。2日の8時半に小田急の改札口がある JR 新宿西口で待ち合わせをし、そこから8時53分発の特急ロマンスカーに乗る。



このロマンスカーには、個室は付いていなかった。



小田原に近づくと、車窓から見える富士山がだんだん近くなる。



箱根湯本駅からは登山列車に乗る。登山列車はスイッチバックしながら登る。



登山電車の車窓から眺めた「出山の鉄橋」と紅葉。



エミール=アントワーヌ・ブールデル作の「弓を引くヘラクレスー大」

### 3. 彫刻の森美術館



箱根の1番人気は、彫刻の森美術館。人々が自然の中で彫刻に接する機会を提供する野外美術館として、1969年（昭和44年）に開館。



ヘンリー・ムーア作の「横たわる像：アーチ状の足」



祐希は水を見ると興奮する。



ナウム・ガボ作の「球型のテーマ」、新宮晋の「終わりのない対話」、オシップ・ザッキン作の「住まい」の作品をバックに。



後藤良二の「交叉する空間構造」



彫刻の森のシンボリックな作品は、ニキ・ド・サン・ファールの「ミス・ブラックパワー」



手前の作品は、ジュリアーノ・パンジ作の「偉大なる物語」。左奥の作品はマックススキーらの作の「シュトルム」



鹿内信孝(考案)、井本淳(レリーフ彫刻)、ガブリエル・ロアール(ステンドグラス)の共同作品「幸せを呼ぶ<シンフォニー彫刻>



元気に走り回る祐希



ピカソの作品が展示されたピカソ館の前に立つカラフルな彫刻は、フェルナン・レジェ作の「歩く花」



カール・ミレス作の「神の手」



ネットの森にある堀内紀子作「おくりもの  
=未知のポケット2」。



「ネットの森」の前にあるジュアン・イ・  
フェラー作の「人物」



山本信の「ハイッ」



アルナルド・ポモドーロ作「地球をもった球体」



井上武吉の「マイ・スカイホール 天への道」



エミール・アントワーヌ・ブールデル作の「力」「勝利」「自由」「雄弁」の像。



カール・ミレスの「人とベガサス」

#### 4. 大涌谷



強羅からケーブルカーで早雲山へ



早雲山駅からは箱根ロープウェイで大涌谷駅へ



ロープウェイから眺めた早雲山駅



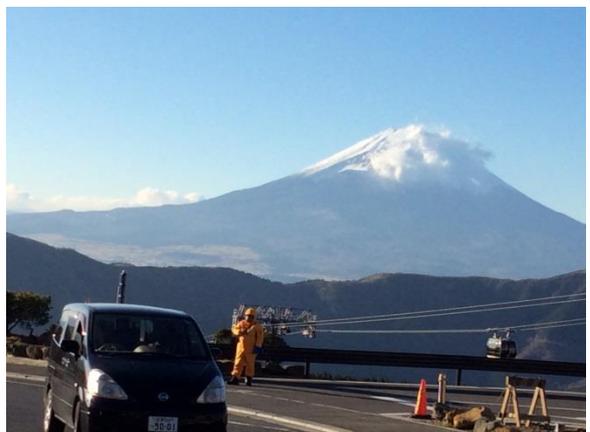
ロープウェイから眺めた砂防工事



大涌谷では、名物の温泉卵を食べる。硫黄で卵が真っ黒くなっている。



硫黄の臭いがする大涌谷。箱根観光は初めてであるが、大涌谷には、熱海観光の際に二度ほど来ている。



富士山がとても綺麗。富士山をバックに年賀状用の写真を家内と一緒に撮ろうと考えていたが、寒波の影響で強風が吹き荒れて寒いので断念。



宿泊した湯本富士屋ホテルの8階の部屋の窓から眺めた箱根湯本の町。赤い色をした登山電車は絵になる。



## 5. 帰路



帰りは、箱根湯本駅から11時46分発新宿行きの特急ロマンスカーに乗る。



このロマンスカーには個室が付いていた。個室に乗るとサービスがよい。